

やまがた



やまがた版への速報や写真・話題の提供、催しなどの連絡、購読についての問い合わせは以下へ

◇山形支局◇
NOSAI山形
〒994-8511
天童市小関1333番地
☎023-656-8988
<http://www.yynosai.or.jp/>



【酒田市】「カラムシから取った繊維は手触りが良く、肌優しい。葉の部分は栄養が豊富なので食べるのもお勧め」と話すのは、酒田市若浜町で「からむし工房あざみ」を営む今野志美子さん(77)。イラクサ科の多年草「カラムシ(青葙)」から取った繊維を使って手編みでバッグや着物、ランプカバーなどの制作に取り組んでいる。

酒田市 今野 志美子さん



カラムシから繊維を取る今野さん

繊維取りや糸作り

植物を使って染色も

国内で古くから栽培されてきたカラムシは、吸湿性や通気性、耐久性に優れ、国の重要無形文化財に指定されている「越後上布」や「小千谷ちぢみ」にも使用される高級繊維。収穫から作品になるまでの工程が多く高度な技術を要するため、現在では携わる人が極めて少なくなっている。

今野さんがカラムシと出会ったのは10年ほど前。友人の勧めでシナノキの皮の繊維で作る鶴岡市の伝統工芸「しな織」を体験した。

「カラムシを使って手編みの着物を作るのは全国でただ一人」と今野さん



カラムシに夢中



「カラムシでできたバッグは風合いが良くて、とても丈夫」と今野さん



本からヒントを得て、帽子、飾り物など多様な作品を制作

ワークショップで後継者育成

村で技術を学んで腕を磨いた。糸作りでは初めに、5月末から10月ころにかけて、自宅敷地や酒田市内の土手で1・5歳ほどに成長したカラムシを収穫。葉を落とし表皮と芯に分けた後、水に浸して表皮を引き、繊維を取る。その繊維を陰干しで数日間乾燥させてから細かく裂き、それらをつないでよりをかけてようやく糸の完成だ。

「糸を作る作業はとても難しく、初めはうまくできずに悔しい思いをした」と今野さんは振り返る。

自然の力を生かすことをモットーにしている今野さんは、アサガオの花、ザクロの皮などさまざまな植物を使って糸を染めている。

「稲穂」「最上川」「飛鳥」など、地元風景を表した色に染め、既製品にはない優しい色合いに仕上げている。

現在はワークショップなどで指導しながら後継者育成にも力を注いでいる今野さん。

「カラムシはコースターにすると水をよく吸い、すだれにすると虫よけにもなる。土が育んだものなので、土に返すことができ、環境にも優しい。若い人たちに身近にある植物の良さを伝えながら後継者を育て、酒田にカラムシ文化を残していきたい」と抱負を話す。